

GON's report

(GONの活動報告書)

レポートをつくってみました。(01/11/28)

企画名 星のかけらをさがしにいこう アゲイン (しし座流星群をみる)

企画内容

11月19日の深夜は、しし座流星群のピーク。キャンプでもからめようかなあ。でも、最初からキャンプするぞと気をいれると不幸がおこるような気がする。ワシらはキャンプしないほうがいいのであろうか。

実施 01/11/19(早朝) 参加 2名
場所 大瀬崎展望所
報告

ドヒャー!! コリヤスゴイ!! ペルセウス座流星群もすごかったけど、今回はケタが2つは違った。さすが100年に1度。ハレー彗星なんか目じゃないぞ! 星のかけらどころか大型バスの団体さんじゃ! ありゃ流星とはいわん。ホント火の玉じゃ! (火球という) とくに午前3時前ぐらいに見えた2つは、爆発したんよ! 音はもちろん聞こえなかったけど、ボーンって。トマホークミサイルかと思った。あたりが明るくなって、しばらく雲(流星痕という)が残ってた。大気圏で燃え尽きたってヤツなんだろうなあ。夜中の2時にヒロを呼びだし、展望所でひっくりかえって眺める。

「フワァー! スゲエ! ドゥワー! キョエー!」

男たちの雄叫びとも嗚咽ともとれないアヤシイ声がひびく。私のメル友(女の子)は、キャーキャー! 言いながら見てたそうだから、エライちがいである。願いごとするのもラクショー。なにしろ前の流れ星が消えても、次のがすぐあらわれるから、よゆーでセリフがいえる。

「借金が返せますように...」

今回、ワシ、カドジュンの大ボケでピーク日を1日まちがえてメンバーに通達しても一た。キャンプやるぞ! 鍋もあるぞ! と檄を飛ばしたが、とんでもないことになってしも一た。みんなスマン! しかし、なかなかキャンプ

のきっかけができないGONって、ホントにへなちょこアウトドアチームだなあ。トホホ。

ちょっとまじめな話なのですが、今回お金をかさなくても何百年にいちどの天体ショーが見れたのに、見なかった人はもったいないなあと思いました。そりゃ仕事もあるでしょうし、家事も大変でしょう。しかし、感動イコールお金ではないです。そうだ、あれだ! 日産のCMコピーでしたっけ、『ものより思い出』そのとおりだと思います。お金をかけなくても感動を味わうことはできるのです。私たちGONはこれからも身近な感動を味わうのです。家から車で0分の大スペクタクルはあるのです。家から一歩出たところにギャハハという笑いがあるはずなのです。(説教クサイなあ。ちょっと反省)

企画名 GON 流大瀬崎鍋(未完)

実施 01/11/19(夕方) 参加 3名
場所 大瀬崎展望所
報告 サラリーマン転覆隊風に書いてみました

(しし座流星群観測の続編です)

流星をみた朝、仮眠をとったワシはフラフラのまま出勤した。自分のカンチガイでキャンプ実行は微妙。申しわけないなあと思ったが、キャンプで使う予定だった鍋用の食材がそのまま残っているのである。そこで、ターに相談したところ「じゃ、きょうは大瀬崎のうえて鍋だけにすーか」ということになった。まあしょーがないだろう。しかしそのあと、でもそれじゃ今年中のキャンプはないかもしれないなあと考えた。うーん、たしかに体はボロボロだ。今日は鍋だけでもいいじゃないかとも思う。しかし、そんな弱気になっている自分がいることに気づいたとたん、「イカーン! GON結成のいいだしっぺとして、ワシがこんなことじゃイカーン!」という心のシャウトが聞こえた。サラリーマン転覆隊本田隊長の本にもあったじゃないか。「今日できないことは、明日もできない!」そのとーりじゃ! 隊長ありがとう! ワシ一人だけでもキャンプしよう。たとえ、いつかどこかで轟沈してもまずはやろう。そう誓った。GONにおいては、とりあえずワシが先頭きってチャレンジすべきなのだ! たぶん。しかし、いさましいワリに心のどこかで、ワシが泊るといえば、ジュンさんが泊まるならオイも泊まるけん! というヤツが出てくるかもしれないなあという期

待もちょっとだけあったのだった。

そして、GON 初の料理企画実行となったのである。参加は結局、ワシ、ター、サトシの3人。今回、仕事で手がはなせなかったワシは下ごしらえができず、母親にたのんでしまった。まあ、今日はしょーがない。献立は鶏ごま団子鍋(ミツカンあじぼんにレシピがついてるアレ。本日のポイントは高級ラウス昆布でだしを取ること)と炭火焼きおにぎり(いかなごのくぎ煮、熊本高菜入り)である。寒いし、やはり鍋であろう。ちなみに、いかなごのくぎ煮とはシラスみたいな小魚を佃煮にした神戸の名物である。くぎ煮は混ぜご飯にして、高菜は包み込んであらかじめ準備してもらった。しかし、大瀬崎展望所は西海国立公園だから、焚き火はできないと以前聞いたことがある。そこで、カセットコンロと炭焼き用の鉄箱を準備した。また今日の炭は、去年、上五島から仕入れてきたものである。なかなか火持ちがよく火力も安定しているので気に入っている。そして、新兵器も導入。その名も「よーせつくん」。カセットボンベ式作業用バーナーの彼は、炭の火おこしが得意というふれこみで GON へやってきた。担当は、鍋奉行サトシ。火あぶり職人ター。自分のテント設営&明かり係カドジュンとなった。

「よーせつくん」はふれこみどおり絶好調、火おこしは順調である。しかし、土鍋はなかなか煮えない。やはりカセットコンロの火力では、自然の力に太刀打ちできないようである。小腹がすいたので、焼酎のお湯割りと少しだけ焼き目がついたおにぎりを食す。うーん、この高菜入りもなかなか。いかなご焼きおにぎりは、あとの楽しみにとっとく。やっとこさ鍋がグツグツいいだったので、煮えるまでもう少しガマンする。

ようやく食べられるようになったので、カンパイ! 鍋も焼おにぎりもいい塩梅だった。空腹も手伝って、食べるというより喰らうという感じでむさぼる。正直おいしかった。しかし、調理に時間がかかり、一度鍋を空けると、次まで煮えるのにまた時間がかかる。少しずつストレスはたまる。焼酎パンチも効いてきて、メンバーもじょじょに壊れはじめた。なかなか煮えない土鍋よりもさきに、業を煮やしたターが本領を発揮しはじめる。

「鶏ばハシにまいて、焼こや! 」

「つ、つくねか!?しかし鶏肉は鍋用でやわかし、ムリじゃなかか? 」とワシ。

「じゃ、(網の上に)ホイルばしこで! 」

「うーん、なるほど、やってみか! そんなら豆腐もよかよな? 」

「よかさ! やるぞサトシ! 」

「ハイ! (さわやかに) 」

「ター! 鍋には、おとしぶたば してむーか? 」

「よかつじゃなか! 」

「そしたら、鍋には野菜のみ入れてあとの食材は焼こう! 」

「おー、よかつじゃなか! 」

サトシが仕事のとときとかわらず素早く動く。

「こっでよかですか? ターさん! (でもさわやか) 」

「おー、よか! しかし、あつじゃね。3人寄ればなんとかってやつやね? 」

「3人寄れば文殊の知恵ってやつじゃな! 」

いつのまにか、ターがイニシアチブを発揮。いいまとめ役になっている。この瞬間 GON の調理部門総料理長の座は確定したと思った。GON においてワシが計画を立てて、自分が知ってる薄っぺらなアウトドアや料理の知識をみんなに教える。ここは職場じゃない。社会人として先輩・後輩はあっても、仕事での上下は自然のフィールドでは全く関係ない。他のメンバーも、それぞれアウトドアにおいて自分の持ち味を謙虚に発揮していけばいいのだ。いいチームになれる予感がする。

おとしぶた作戦はあたった。煮えるのがはやくなった。鶏もいい感じだ。アツアツの焼き物と鍋。ゆずぼんにつけて、焼酎で流しこめばサイコーである。知らない間に、野外鍋のマニュアルを手に入れたような気になった。しかし、さすがに4~5人前の食材が腹と気分にも重くのかかってくる。うまく食う方法はないものか? それぞれ考えているときに料理長が

「...おにぎりばハシにさして、鍋にいるーか? 」

「秋田のきりたんぽかあ!?...しかし、それはムリと思うぞ! 」

「そーか? そしたら、そんままいれてよかるーか? 」

「おじやかあ... まあそれならよかかな... 」

いいはずないのであるが、ワシも少し壊れかかってきたのだ。鶏団子を蒸し焼きにし、豆腐は網焼き、焼おにぎりは鍋に投入された。アベコベである。さらに出汁をとった高級ラウス昆布までターとサトシは食いはじめた。悪食だ!

「コンブもうまかぞ! サトシ! 」

「ハイ！（でも、やっぱりさわやか）」

そこで、ターが少し冷静になっていう。

「食い合わせは大丈夫やるか？」

いいわけないが、いやがってたワシも少し食べてみる。いかなごが甘辛くキショイ。高菜も風味がキツかった。食い合わせ以前の問題である。さすがのさわやかサトシも顔をしかめていう。

「しかし、高菜がキツかです（ちょっと不満）」

あたり前である。しかし、終始キゲンがいい。やっぱり気を使わず、楽しく仲間どうしてやっているからだろう。すっかりタンノーのご様子のターがこぼす。

「オイらよかよー。こげんことだいがすー？ つぎすときは鶏の丸焼きば喰おでー！ ジュルル」

「ジュルル、おっとイカン。…君、それはローストチキンかスタッフドチキンというのだよ。イカンな君、育ちがわかるよ。…よし、ダッチオープン導入を検討する。明日までに計画書を提出しまえ！」

ギャハハハ！ ガハハハ！

「こがんギョウは、おっだしかせんぞ！ ジュンさん！」
「そーじゃな、ワシら今日、五島で一番幸せな人間かもしれん！」

完全に調子に乗っているが、本当に楽しかったのだ。たぶん自分達がやりたくてやってるからだろう。やらされるものとか義務的なのは基本的にイヤだ。でも、やるからにはいかに前向きに楽しめるか、それをできるかが問題だと思う。気の持ちようである。もちろん、自分たちが楽しんだあとは、ネットとかで外部に発信し、都会の連中とかに「五島オモシロイ！！」とうらやましがらせるのである。そしたら、五島に興味がわくモノずきがでてくるかもしれない。しかし、そういう意味で今日の3人は、ポジティブシンキングを地でいった。GONはこれからもそうありたい。今後、もしGONに入りたいという人がいたら、そんなこまかいことを気にしない性格がメンバーにむいているのだろう。

『自分が沈して笑われても逆恨みしない』

『人の和を乱さない』

『仕事のこととかブルーな話はしない』などなど

結局、4～5人前あった料理を全てたいらげた。うーん、メンバーの底力にちょっとカンドー。

いかなご達もまさか神戸で甘辛く煮つめられ、五島まで送られるとは思わなかつただろう。さらにおにぎりに入れられ、焼かれ、あげくの果てには鍋の中へ投入され、

北海道のラウス昆布、熊本県の高菜と出会うのである。みんなお互いにビックリしたと思う。おまけにこんな野郎どもに喰われるのだ。しかし、絶対あうことがない食材達（味の面でも）が大瀬崎灯台にて運命的で？ 度とない対面をする。これはちょっとした奇跡だ！？ すこし感動したワシは、「よし、これを大瀬崎鍋と名づけよう！」と調子に乗った。数奇な運命をたどった鍋の中のいかなご達は、ワシらを呪うのであろうか？ そんなことわかるわけがない。ワシらにできるは、ただ完食することだけである。それが食材達への供養なのだ。

しかし、これが大瀬崎鍋というなら、大瀬崎にいつか「あんなもんネコでも食わねえぞ！ ナメンじゃねえ！！」と怒られそうである。自然はコワイ。絶対ナメてはいけない。パチがあたる前に、ちゃんとしたGON流大瀬崎鍋を完成させようとワシは考えた。今日の鍋はあくまで仮だ！ 未完だ！

結局、2人は完璧に片付けをしてくれたあと帰っていった。オイも泊まるけんターがいったような気がしたが、幻聴のようなものである。やっぱりつかれてるんだ、ワシ。ひとり残ったワシは、しばらく焼酎を飲んで海や星を眺めていた。「やっぱりアウトドアはいいなあ。つぎは、おおぜいで遊びたいなあ。キャンプしてえなあ。…しかしさみいなあ。…やっぱり今から帰ろうかなあ（!?）」と悩んでしまった。でも、ここ数日のつかれから10時前にシュラフ（寝袋）にもぐりこむと、テントが風でパタつくなか眠りについてしまった。

明日は山から職場へ出勤である。

翌日、職場の女性事務員さんにその話をするとうらやましがられた。やっぱりそうだろうか。一部のバイタリティーあふれる女性をのぞいて、そんなおバカで子どもじみたことは男しかできないと思うのである。

（これは男女差別を意図した発言ではありません。あくまで男はいつまでたっても子どもみたいでバカなんだと、いいたいのですよー。ではでは）